

DC(デスティネーションキャン ペーン)の取り組みについて

四 竈 英 夫



〔質問〕平成25年4月～6月に開催されるDC。

本市の観光と商業を振興させるための最重要課題として取り上げられている具体的な取り組みを伺いたい。

また、昨年来3社の大手企業の誘致が実現したが、今後さらなる企業誘致に向け、用地造成等を含めてどのような取り組みをされるのか伺いたい。

〔答弁〕【市長】5年ぶりに開催されるDCについては、すでに平成24年4月～6月にかけて、プレDCと位置づけ、各種事業(まるところ・めんまつり、小原・鎌先温泉の共通湯めぐり手形)を展開し観光誘客事業に取り組んでいる。

DCのイベントとしては、沢端川桜フワシル音楽の夕べの開催、孝女仇討ち奥州白石断フェスタ等を予定している。

また、小原温泉C級グルメの旅、ノルディックウォーク鎌先等にも積極的に支援していく。

さらに白石城・武家屋敷・沢端川・御廟・甲冑堂・孝子堂等を回遊しながら、小物づくりを体験できるイベントを展開していきたい。

企業誘致については、庁内に工業団地計画推進プロジェクト委員会を組織し、新たな候補地の選定を行っている。

今後もトップセールスはもちろん、県や関係機関・市議会と力を合わせてさらなる企業誘致に努めていきたい。

【外来種等への対応について】

〔質問〕外来種の植物や魚類等の異常繁殖が問題になっている。

セイタカアワダチソウは一見きれいな花に見えるが繁殖力が強く、短期間で繁茂する。

魚類ではブラックバスやブルーギル等が異常繁殖を続け、在来の淡水魚への影響が危惧される。

これらをどのように受けとめているか伺いたい。

〔答弁〕【市長】セイタカアワダチソウについては苦情があった場合は、土地の所有者に通知をして、刈り取りや、除草剤等による適切な処理をお願いしている。

外来種魚類対策については、放流の禁止等を広く市民にお知らせして対策を講じたい。



DC(デスティネーションキャンペーン)とはJRグループ旅客6社と指定された自治体、地元観光事業者等が協働で実施する大型観光キャンペーンのこと

放射能に対する健康調査について

澁谷 政義



〔質問〕当市は、除染作業の推進により一定の成果は確認されているが、未だに市民の不安は払拭されていない。

先般行われた市長選の、争点の一つでもあった「放射能から子供を守ろう」は、多くの市民の関心の的であった。

特に幼い子どもを持つ親や家族の最大の願いであったと思う。ここに選挙戦も終え、今、冷静に市民の声に耳を傾けるならば、子どもたちの健康調査を当市独自で実施してはどうか。

将来発生するかもしれない色々な症状との因果関係に、検査と補償が公平に受けられる

よう検査記録等を残すのも、今、政治に関わる我々の責務と思う。政治に携わる者は、目先のみならず、先を見据えて英断を下す者が後世に高い評価を得るのではないかと思うが、市長のご英断を伺う。

〔答弁〕【市長】健康調査については、6月議会の際に、「宮城県の有識者会議によると科学的また医学的見地から健康調査の必要はない」という判断を示しており、その判断は現在の放射線量を踏まえた論理的な判断と考えている。本市独自の健康診断を実施する予定は今のところはない」と答弁している。現在においても、その考えに変わ

わりはない。

また、その答弁の際に、「国に対し、健康影響調査の実施の必要性及び対応方針について明確な基準を早急に示して、必要があると認められた場合は、国の責任において実施する」と、お答えをしているところである。

〔質問〕子どもたちの将来を心配しているため、検査を行い、その結果を残し将来に対応できるようにすべきだと考えるがいかがか。

〔答弁〕【市長】今後、国が制定した「子ども被災者生活支援法」が、この問題にどのように影響してくるかを注視していきたい。